

道徳科 学習指導案

1. 日時 令和8年〇月〇日(〇) 〇〇:〇〇~〇〇:〇〇

2. 学年・組 1年〇組(〇〇名)

3. 主題名 こまっている ともだちに

小学校第1学年及び第2学年 B-9 友情 信頼

4. 教材名 『くりのみ』(Gakken「みんなのどうとくI」)

5. 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値と指導内容について

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	中学校
友だちと仲よくし、助け合うこと。	友だちと互いに理解し、信頼し、助け合うこと	友だちと互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。	友情の尊さを理解して心から信頼できる友だちをもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。

「友情、信頼(友だちと仲良くし助け合うこと)」は、友だち関係における基本とすべきことであり、友だちとの間に信頼と切磋琢磨の精神をもつことに関する内容項目である。

友だちは家族以外で特に深い関わりをもつ存在であり、友だち関係はともに学んだり遊んだりすることを通して、互いに影響し合って構築される。時には、友だちの立場を理解したり、自分と違う考えを受け入れたりすることが難しいこともある。しかし、学級で一緒に生活しながら勉強したり、仲良く遊んだり、困っている友だちを心配して助けたりする経験を通して、友だちのよさを感じられるようになる。

1年生の段階は、幼児期の自己中心性から十分に抜け出せていないので、友だちの立場を理解して行動しようとするよりも、自分の思いの方を優先して行動してしまう傾向が強い。もし、誰かが困っていても、自分が「こうしたい」と思えば、友だちの気持ちを押し量ることをせず、自分の思いの方に流れてしまうことが多い。

しかし、この段階は、学級の中でいろいろな友だちと関わって生活することで、友だちのよさをより強く感じるようになる時期でもある。登場人物の心情の変化や行動の理由について話し合う活動を通して、友だちから助けをもらうとどのような気持ちになるのか考えさせたい。また、友だちのことを思いやっけて助け合おうとする心が、なかよくするために大切であることにも気付かせたい。

そこで本時では、助けてもらった登場人物が、その後、どのような行動を起こすのか話し合わせることで、助け合いの大切さについて考えさせたい。

(2) 児童について

<略>

(3) 教材について

本教材は、友だちに助けられたときの気持ちを考えることを通して、ねらいに迫るものである。

どんぐりを見つけたにもかかわらず、それを一人で食べたり、落ち葉で隠したり、何も見つからないと嘘をついたりするきつねと、二つしかないくりのみのうちの一つをきつねに渡すうさぎの姿が対比的に描かれている。

自分のことしか考えていないきつねと、困っている友だちを助けようとするうさぎの姿から、友だちとどのような関係を築いていくことが大切なのかを考えさせることができる教材である。

(4) 指導について

本授業でのねらいを達成するために、以下の2つの視点で手だてを行う。

① 学習者主体の授業づくり

- ・ 全員が本教材の内容を理解できるよう、挿絵を提示しながら読み進めていく。
- ・ 役割演技も取り入れながら、うさぎのきつねに対する優しい気持ちを考えられるようにする。
- ・ きつねの心の変化が分かる板書構成にする。

② 多様な子どもをつなげる工夫(インクルーシブな教室)

- ・ ハンドサインで自分の考えを示す場面を作ることによって、友だちの考えを知る機会を設ける。
- ・ ペアや近くの児童と話し合うことで、理解を深められるようにする。

6. 本時のねらい

身近な友だちと仲良く活動し、助け合うことの大切さに気づき、困っているときには互いに助け合おうとする心情を育てる。

7. 本時の展開

	学習活動	主な発問 (○) と 予想される児童の反応 (・)	指導上の留意点 (・) 評価の観点 (★)
導 入	1. 「友だち」について考える。 2. 教材「くりのみ」について知り、物語の背景を想像する	○どんな友だちがほしいですか？ ・やさしい ・うそをつかない ・一緒に遊んでくれる ・命令しない ○冬の動物たちの様子を想像しましょう。 ・さむい ・食べ物がいない ・困っている	・価値への導入を行う。 ・食べ物がなく、みんな困っていることをおさえる。
展 開	3. 物語を想像しながら読む。 4. どんぐりを隠したきつねの気持ちを考える。 5. 役割演技を通して、きつねが涙を流したわけを考える。	○きつねとうさぎは、どんな友だちか考えながら聞きましょう。 ○きつねは、なぜどんぐりを隠したのでしょうか。 ・おなかがすいたら、また食べよう。 ・ひとりじめ、あげたくない。 ・うさぎにおしえたくない ○うさぎは、なぜ、きつねに栗をあげたのでしょうか。	・挿絵を提示しながら、範読していく。 ・寒い冬の中やっと見つけたどんぐりを隠しておくことは当然の行為であることを共感的に捉えられるようにする。 ・困っている友だちを助けようとするうさぎの優しさに気づけるようにする。
		きつねは、なぜ、なみだを ながしたのでしょうか。	
		・二つしかないのに一つくれたから ・自分はおなかがいっぱいだったのに ・うさぎはやさしいな ・おなかがすいていることを信じてくれた	・友だちのことを思って行動したうさぎと、自分のことを先に考えたきつねの気持ちや行動の違いに気づけるようにする。

展 開	6. 「友だち」について考えを深める。	○このあと、きつねはどうしたでしょう。 ・ごめんなさいと言った ・いっしょにさがす ・うさぎに隠したどんぐりをわけてあげる ・嘘をついたことをあやまりたいけど、言えなくて悩んでいる	★友だちと助け合うことの大切さについて、多面的・多角的に考えていたか。
終 末	7. 授業の感想・振り返りを書く。	○今日の授業を振り返って、分かったことや考えたこと、これからやってみたいことを書きましょう。	・ワークシートへの記入（振り返り） ★「困っている時には助け合う」という思いを自分との関わりで深めようとしていたか。

8. 板書計画



9. 評価の視点

- ・困っている友だちに対してとるべき行動を多面的・多角的に考え、互いに助け合うことの大切さについて考えていたか。
- ・友だちと助け合うことの大切さを実感し、困っている友だちを積極的に助けることについて思いを深めていたか。